

教科(科目)	公民（公共）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	高等学校 公共（帝国書院）				
副教材等	高等学校 公共ノート（帝国書院）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までにこのような資質・能力を育みます。</p> <p>①明確な目標を設定し、その達成に向けて継続的に努力できる力を育成します。</p> <p>②主体的・意欲的に学びに向かう姿勢と、誠実で礼儀正しい態度を育成します。</p> <p>③前向きに自己の向上に努め、思いやりを持って行動できる力を育成します。</p> <p>④自ら課題を見つけて解決しようと行動し、社会に貢献する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います。</p> <p>①基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、ICTの活用など工夫をし、生徒が主体的・対話的に学習に取り組めるよう「分かる」授業の実践・改善に努めます。</p> <p>②総合的な探究では、教科等横断的な視点で、地域社会と自己との関わりから課題を発見し、多様な他者と協働して解決しようとする活動に取り組みます。</p> <p>③生徒個々の持っている長所・能力を最大限伸ばし、生徒が自らの可能性に挑戦し、進路希望を実現できるようキャリア教育を推進します。</p> <p>④社会に貢献する姿勢を身に付けさせるために、新潟県立大学との交流、地域行事への参加、ボランティア活動などへの積極的な参加を促進します。</p>

2 学習目標

<p>考察・選択・判断のための手掛かりとなる概念・理論を理解し、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>

3 指導の重点

<p>進学・就職等希望者が多岐にわたっていることや、成人年齢の引き下げを考慮し、</p> <p>①公民としての資質・能力を養うために必要な知識や技能を身につける。</p> <p>②公民としての自覚を養うため、現代の諸課題について、主体的かつ多面的に考える姿勢を養う。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。</p>	<p>現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。</p>	<p>国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に捉え、解決しようとしている。</p>

5 評価方法

各観点における評価は次のとおりです。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	定期考査の成績や授業プリントの内容をもとに評価する。	定期考査の成績や授業プリントの内容をもとに評価する。	授業プリント内の振り返りシートの内容や授業態度などをもとに評価する。
	内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	青年期と社会参画	1 私たちの生きる現代社会 2 青年期について考えよう 3 悩むことについて考えよう 4 ジェンダーについて考えよう 5 学ぶことについて考えよう 6 社会参画とキャリアについて考えよう	<ul style="list-style-type: none"> 自らの体験等を振り返ることを通して、自らを成長させる人間としてのあり方・生き方について理解する。 集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現する。 公共的な空間としての社会に、主体的に関わる。 	14	授業態度 発問評価 ワークシートの提出、内容 定期考査 小テスト 振り返りシート
5	宗教・思想・伝統文化と社会	1 宗教について考えよう 2 日本の思想について考えよう 3 日本の伝統と文化について考えよう 1 よく生きる 古代ギリシャの思想 2 人とは何か 古代中国の思想 3 動機と結果 近代西洋の思想 4 公平と正義 現代の思想	<ul style="list-style-type: none"> 自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重する。 様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現する。 公共的な空間における課題の解決を視野に、主体的に社会に関わる。 人間としてのあり方・生き方に関わる諸資料から、よりよく生きるために必要な情報を収集し、読み取る技能を身につける。 倫理的価値の判断において、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としてのあり方・生き方を多面的・多角的に考察し、表現する。 		
6 7	社会の基本原則と憲法の考え方	1 近代立憲主義の原理 2 近代立憲主義の広がり 3 日本国憲法 4 平等に生きる権利 5 自由に生きる権利① 6 自由に生きる権利② 7 人間らしく生きる権利 8 広がる人権の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 公共的な空間における人間としてのあり方・生き方について、現代社会の諸課題の解決を視野に、主体的に社会に関わる。 人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作るうえで必要であることについて理解する。 公共的空間における基本的原理について、思 	16	授業態度 発問評価 ワークシートの提出、内容 定期考査 小テスト 振り返りシート

7 8	法の意義 と司法参加	<p>9 人権保障の国際的な広がり</p> <p>1 社会規範と法 2 私たちの生活と法 3 契約の考え方 4 消費者の権利と責任 5 司法の役割 6 刑事裁判とその課題</p>	<p>考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共的空間における基本的原理について、日本国憲法を踏まえて現代の課題の解決を視野に、主体的に社会に関わる。 現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きにのっとり、各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。 自立した法的主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。 法や規範の意義および役割、多様な契約および消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わる。 		
9	民主社会 と政治参加	<p>1 政治と権力 2 議院内閣制と国会 3 権力分立と行政の役割 4 地方自治の役割 5 政党政治とメディア 6 選挙制度とその課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれていくものであることについて理解する。 自立した政治主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。 政治参加と公正な世論の形成、地方自治等に関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わる。 	7	<p>授業態度 発問評価 ワークシートの提出、内容 定期考査 小テスト 振り返りシート</p>
10 11	国際政治 の動向と 平和の追 求	<p>1 国家と国際法 2 日本の主権と領土 3 平和主義と日本の防衛政策 4 これからの日本の安全保障 5 国際連合の役割と活動 6 紛争とテロリズム 7 核兵器と軍縮の課題 8 国際協力と日本の役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主権、領土、日本の安全保障、国際貢献を含む国際社会における日本の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。 自立した政治主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。 主権、領土、日本の安全保障、国際貢献を含む国際社会における日本の役割等に関わる課題解決を視野に、主体的に社会に関わる。 	8	<p>授業態度 発問評価 ワークシートの提出、内容 定期考査 小テスト 振り返りシート</p>

11 12	市場経済のしくみ	1 経済とその考え方 2 市場のメリットと限界 3 企業の目的と役割 4 金融の役割 5 政府の役割と財政の機能 6 日本の財政の課題 7 経済の変動	<ul style="list-style-type: none"> 市場経済の機能と限界、金融の働き、財政および租税の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること、より活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。 自立した経済主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。 市場経済の機能と限界、金融の働き、財政及び租税の役割などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わる。 	15 授業態度 発問評価 ワークシートの提出、内容 定期考査 小テスト 振り返りシート
12 1	豊かな社会の実現	1 産業構造の変化と職業選択 2 中小企業と農業 3 労働者の権利 4 雇用と労働に関する課題 5 社会保障の役割と意義 6 社会保障制度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化等に関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること、より活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。 自立した経済主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。 職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わる。 	授業態度 発問評価 ワークシートの提出、内容 定期考査 小テスト 振り返りシート
2	国際経済の動向と格差の是正	1 国際経済のしくみ 2 国際経済の枠組み 3 地域経済統合 4 グローバル化と自由貿易協定 5 国際経済の変化と課題 6 経済格差の是正	<ul style="list-style-type: none"> 経済のグローバル化と相互依存関係の深まりなどに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること、およびより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。 自立した経済主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。 	6 授業態度 発問評価 ワークシートの提出、内容 定期考査 小テスト 振り返りシート

			<ul style="list-style-type: none"> ・経済のグローバル化と相互依存関係の深まりなどに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わる。 		
3	持続可能な社会の実現に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・増加する医療費を誰が負担すべきか？ ・パリ協定目標達成のために国際社会に必要なことは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の諸問題について、その問題の所在、現状、問題点などが理解できている。 ・現代社会の諸問題解決のために、事実を基に協働して考察、構想する。 ・様々な課題の中で、自己との関わりに注目して主体的に課題を選択し、探究する。 	4	授業態度 発問評価 ワークシートの提出、内容 振り返りシート

計 70 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

授業はプリントを用いて行い、提出した内容で「主体的に学習に取り組む態度」を見ます。

7 担当者からの一言

現代の諸課題について、自分事として捉え、その原因や内容、解決策等を主体的に考えていきましょう。

(担当 宮村)